

【Ⅲ】自由記述に示された意見

自由記述のうち、学生の宗教意識を探る手がかりとなる回答や、宗教や宗教に深く関わる事柄に対する考え方を知らるために参考となる回答を記載する。全体の傾向とともに、実際にどのような記述であったかを、代表的なものや特徴的なものについて示す。

自由記述は各設問に対して回答の選択肢以外の「その他」として、具体的に書かれていたものである。あらかじめ設けられていた選択肢とほぼ重なるような内容のものもあったが、あまり想定しなかったような記述もあった。無記名アンケートであるので、ふざけて書いたものもあると考えられるが、それでも当人がそう思っていたことの一環であるので参考にすべきである。

以下で示すのは、信仰に関わる事柄、宗教の社会的問題、脳死状態での臓器移植問題、靖国問題、オウム真理教問題、イスラム問題である。どのような設問に対する自由記述であったかは、それぞれの冒頭に記してある。

第17章 信仰・宗教に関わる問題

a) 宗教及び関連事象への関心内容

宗教についての関心の具体的内容については、1995年の第1回調査から2005年の第8回調査まで、次のような内容で8回質問した。いずれも「信仰はもっていないが、宗教に関心がある」と回答した人を対象としたものである。予め設けた選択肢以外にどのようなことが記述されていたかを示す。

質問内容

次のうち、あなたが関心をもっているものに、すべて○をして下さい。

- 1.聖書や仏教経典などの宗教書
- 2.宗教を扱った小説やノンフィクション
- 3.宗教教団や世界の宗教などを扱ったテレビ番組
- 4.神社や仏閣などの宗教施設の見学
- 5.その他[具体的に]

①1995年

この年は具体的な記述をした人が3,773名の全回答者のうち305名(8.1%)であった。最も多かったのは、やはりオウム真理教事件の直後とあって、オウム真理教に関することであり、これを挙げた人が40名。次いで多かったのは、「宗教画」、「宗教美術」、「宗教音楽」「宗教の文化的背景」など、宗教文化に関することを挙げた人で16名。あまり予想していなかったことであるが、「宗教学」という回答も13名いた。「なぜ宗教を信じるか」という類のものも12名。新宗教(新興宗教)を挙げた人や、キリスト教、チベット仏教、イスラム教などの宗教名を挙げた人も数名ずついた。その他、神話、宗教心理、宗教思想、宗教紛争なども複数あった。

少し特徴的な回答を以下に示す。

「神とは何か。神とはどういうものか。神は全ての善悪を知りつくしているのか」

「宗教に必要性を感じず、なくすべきだと思うので、まずは敵と知るところから始めたい」

「日本に宗教が根付きにくいことと日本人の民族性とのかわり」

「信仰をすることによって内面から引き出される能力について」

「人生とは、幸福とは何か的な内容の本」

②1996年

1996年は4,344の回答者のうち306名(7.0%)が自由記述をしている。「宗教を信じている人」に関心がある、といった内容の記述が10名ほどいた。また宗教文化への関心も前年同様一定数見出される。ただ宗教に懐疑的あるいは批判的な記述も若干あった。

- 「それぞれの宗教の基本的な教えかたを知ること」
- 「それぞれの宗教の教義など、なぜ宗教があるのか」
- 「何故、世界に数え切れないほどの宗教があるのか」
- 「なぜ人間は神を信じるようになったか」
- 「何故人は宗教に心の拠り所を求めるのであろうか。建築に見る宗教構造」
- 「何であんな宗教にひっかかるのか知りたい」
- 「古代宗教」
- 「宗教が誘因となる社会運動」

③1997年

1997年は5,718の回答者のうち300名(5.2%)が自由記述をしている。オウム真理教に関心があると記述した者も依然として一定数いる。宗教と社会、国家との関わりなど、宗教学的な関心が少し増えている。宗教には関心があるが、宗教団体には警戒しているような記述も若干ある。

- 「キリスト教における Death Education について」
- 「人間が宗教にひかれる理由を知りたい 宗教の役割を知りたい」
- 「様々な宗教などで語られる神や悪魔など伝説の生き物」
- 「人はどれくらい宗教にお金を使うか」
- 「ちなみに宗教に興味はあるが宗教団体は嫌いだ！！」
- 「何故人は宗教が必要か、何故政治に利用されてきたかとか、他宗教への攻撃など」
- 「宗教に名を借りた詐欺や金儲けについて」
- 「宗教団体に入る気はないが、それぞれの宗教の教え」

④1998年

1998年は回答者6,248名のうち710名(11.4%)が自由記述をしている。割合としてはもっとも記述が多かった年である。大きな傾向の差はないが、多様性に富んでいる。マニアックなものもある。

- 「何故、宗教が人間になければならないのか」
- 「ドイツにおける宗教と歴史」
- 「ヨーロッパの魔女狩りや黒魔術」
- 「聖書は歴史書であるということに関わる本」
- 「宗教家の語録」
- 「宗教を信仰する人の思考」
- 「新興宗教」
- 「宗教にはまる人」
- 「オウム問題」
- 「いわゆる”怪しい宗教” オウム、創価学会 etc.」
- 「雑学を無視した宗教の真の真理のみを個人で学ぶ」
- 「戒律、社会構造 (特にイスラム教)」
- 「宗教によって引き起こされる紛争」
- 「世紀末終末思想」
- 「仏像、石窟寺院など、仏教美術」

「オカルト集団」

「宗教と政治・軍事など」

⑤1999年

この年は回答者が10,941人いた年であるが、自由記述をした人は710名（6.5%）である。やはり多様な内容にわたるが、少し珍しいものを示す。

「説教やどのような教えや祈り方をしているか」

「ニューギニア等の原始宗教」

「なぜ神様は目に見えないのにいると分かるのか」

「地理学的に見た世界の宗教分布」

「宗教によって分けられる男女の立場の違い」

「ユタ州のモルモン教の家庭に一年ほどホームステイしていたので、宗教を信仰している人々の生活様式に興味を持つようになった」

「住職さんのおはなし」

「無宗教の哲学」

⑥2000年

この年の回答者は6,483名で自由記述は325名（5.0%）である。

「神道の特異性」

「哲学、否定神学」

「宗教の歴史と中近東での宗教の争い」

「仏壇のことを家では仏様というが、一般の人々はそれは祖先にお祈りしているのか、それとも、仏にお祈りしているのか、ということなど」

「宗教を持つことで現れる人間」

「五行思想」

「宗教かぶれのフィクション小説、マンガなど」

「幸福の科学」

「平安時代の陰陽師などの小説が好きです」

「チベット仏教の崇高さ」

⑦2001年

この年の回答者は5,759名で自由記述は337名（5.9%）であった。

「宗教に関する祭り」

「宗教的な見方のできる映画」

「特選！怪しい宗教家」

「宗教団体による福祉活動」

「キリスト教の歴史」

「古代文明の宗教。信仰の対象とその世界観」

「神や悪魔の伝説や神話」

「讃美歌で歌う歌に興味がある」

「宗教を扱ったマンガ」

「中東やユーゴスラヴィアなどの紛争」

「宗教によってどんな制約を受けて暮らしているかとか、宗教一つ一つの違いは何なのかなど」

「シャーマニズム、儀礼の構造など」

⑧2005年

この年の全回答者は 4,252 名で、自由記述は 216 名 (5.1%)。

- 「宗教的伝統行事」
- 「宗教団体の仕組み」
- 「宗教と革命の類似性」
- 「信仰のある人にとって死とは何なのか」
- 「宗教がもたらす利害について」
- 「信者の言い分」
- 「宗教と政党の関係」
- 「宗教と文明・価値観の関係」
- 「宗教と犯罪」

b) 友人の信仰に関して

友人の信仰に対する態度については 1995 年から 2000 年まで毎年質問した。回答の内容にあまり大きな変化はないので、1997 年と 98 年のものは省略する。

質問内容

もしある友人が宗教を信じていると分かったらどうしますか。

1. 今までと変わらず接する
2. 友人が信じている宗教によってはつきあい方を変える
3. その友人とはつきあいをやめる
4. その他[具体的に]

どの年も「今までと変わらず接する」が圧倒的に多く、友人が信仰をもっているかどうかにはあまり左右されないことが分かる。

①1995 年

回答者 3,773 名のうち、113 名 (3.0%) が自由記述している。ただし、そのうちのいくつかはすでに用意された選択肢に当てはまるものであった。そうでないもので目につくのは、強要されたり、しつこく勧められたら、付き合い方を変えたり、付き合いを止めるというもので、7 名がそれに類する回答であった。またその宗教について質問するという趣旨の回答も 6 名いた。「日本的無宗教の素晴らしさを徹底的に説いて説得する」というような少し変わった回答も 1 つあった。主だったものを以下に示す。

「基本的に接し方は変らないと思うが、よくなさそうな宗教だと思えば説得すると思う」

「私にその宗教を勧めるようだったらつきあいをやめる」

「新興宗教等の場合はつきあいをやめる。(実際そうした。統一教会に入信した人が居て、お金をかしてほしいと言われた)」

「友人が宗教を私にまで強制するならば考えるが、そうでなければ尊重してあげたい」

「オウムのように異常でない限りは全く問題にしないが異常と思われたら考えると思う」

「オウムなどのカルト教団でない限り、付き合い方は変えない。」

「よりいっそう仲良くする」

②1996 年

回答者 4,344 名のうち 132 名 (3.0%) が記述。傾向はあまり変わらないので、代表的なものを二、三示す。

「その宗教に何故入ったのか入ってどうするのかということを知りたい」

「おまえバカだという」

「その宗教によってその人が変わってないのなら、変わらずに接する」

「それによって性格などが変わったらつき合い方を変える」

「私にも教義などを教えてほしい」

③1997年

回答者 5,718 名のうち 165 名 (2.9%) が記述。具体例をいくつか示す。

「この宗教が友人にとって悪影響を及ぼしていると判断したら説得する」

「熱狂的信者で、こわい思想の宗教ならこれからのつきあいを考え直す」

「理想としては、今までと変わらず接するけれど、現実には、つきあい方を変えると思う」

「理由を聞く」

「話を聞いてみる」

「友人の宗教を勉強する」

⑥2000年

回答者 6,483 名のうち 213 名 (3.3%) が記述。これまで大きな違いはないが、具体例を少し示す。

「想像つかない」

「周りを巻きこんだら注意してやめろと言う」

「なぜその宗教を信仰しているのか、友人に論理的説明を求める」

「とまどいを感じるかもしれない」

c) スピリチュアリティについて

スピリチュアリティについては 2007 年と 2015 年に質問しているが、テレビの影響をまざまざとみせつけるような結果となった。

質問内容

「スピリチュアルな」という表現であなたが感じるのは次のどれですか。

1. 精神的に深みのあることを感じる。
2. 宗教的というのに比べると、近づきやすく感じる。
3. あやしさを感じる。
4. なんのことだか、よくわからない。
5. その他(具体的に)

記述内容はあらかじめ設けられていた 1~4 に重なるものもあったが、記述した内容をあらためて整理すると、おおよそどのようにこの言葉を受け止めているかが分かる。1~4 の選択肢を選んだ結果では 2007 年には「精神的に深みのあることを感じる」が 42.2%いたが、2015 年には 38.0%に少し減少している。逆に「あやしさを感じる」は 2007 年の 26.8%が 2015 年には 33.5%に増えている。この間にいくらか否定的イメージが強まっている。自由記述もやや否定的あるいは懐疑的な表現が増えている。連想される内容にも顕著な違いがでている。

①2007年

2007 年の調査で自由記述があったのは 255 名 (5.9%) である。そのうち江原啓之の名前を挙げたのが 60 名、美輪明宏の名前を挙げたのが 15 名である。二人が出ていた「オーラの泉」というテレビ番組名を挙げたのが 19 名である。当時は「オーラの泉」は人気があり、若い世代にも影響があったことがわかる。また「神秘的」という表現を用いたのが 8 名、「霊的」という表現を用いたのが 8 名いた。他方で否定的な言葉を用いたものもあり、「うさんくさい」が 7 名、「いんちき」が 9 名いた。

具体的な記述を肯定的・否定的に分けていくつか示すが、自由記述の中にはどちらかと言えば否定的なものの方が多い。

<肯定的評価>

- 「魂に深みのあることを感じる」
- 「なんだかよくわからないが、良さそうだなあというイメージ」
- 「宗教などとは別の次元のその人の在り方みたいなものだと思います」

<否定的評価>

- 「テレビに出るようなやつはフェイク」
- 「「スピリチュアル」という単語自体が、そもそも言葉遊びにしか感じない」
- 「なんだかインチキな感じがする」
- 「金もうけ。新しいビジネス」
- 「最近のメディアなどで、本来の意味よりも占いの要素で用いられているため、あまり印象はよくない」
- 「最近の流行に乗ったうそっぽちに聞こえる」
- 「最近使われすぎていて軽く感じてしまう」
- 「風水とか占いっぽい感じ」

②2015年

2015年の調査では226名が自由記述している。2007年との違いは江原という名前を挙げた人が1人もいないことである。美輪さんとか、美輪明宏と書いた人は4名いるが、これも数はずいぶん減っている。8年の間にテレビ番組の影響が如実にあらわれている。「オーラの泉」という番組は2005年から2009年まで放映された。2007年はその最中であり、2015年は放送終了してから6年経っている。その違いがよくあらわれている。

替わって登場したのが、「ラブライブ！」であり、東條希（とうじょうのぞみ）という架空のキャラクター名を挙げたのが10名いる。東條希は不思議系スピリチュアルガールとされているが、その愛称である「のんたん」と書いた人が5名いる。「ラブライブ」と書いた人も12名いる。アニメと書いた人が6名いる。神秘的という言葉は38名が使い、神聖という言葉は6名が使っている。またオーラは4名が使っている。他方で「うさんくさい」といった否定的な用語も多い。肯定的、否定的、その他に分けて示す。

<肯定的>

- 「パワースポットのように、雰囲気があること清らかで澄み渡った感じ」
- 「不思議である。科学では説明できない」
- 「精神に働きかけのある人の手のおよばないもの」
- 「興味を感じたり美しさのようなものを感じる」

<否定的>

- 「テレビ業界が作り出した用語、やらせ。本当の意味と離れて1人歩きしている。」
- 「TV的な感じがしてうさんくさい」
- 「うさんくさい。お金取られそう。外来語にしてあやふやにしてごまかしていそう。」
- 「スピリチュアルという言葉1つで表現されるものがどれも具体性、可視性、再現性を持たない」
- 「とんでも理論を振りかざす」
- 「よく考えない人は引かかるかもという疑惑の念、疑い」
- 「以前は精神世界の探求を感じるものだったが現在は言葉が使われすぎて、安易さ、あやしさを感じる表現に変化した」
- 「緩和ケアに必要な」
- 「最近は多用されすぎて軽い表現のように感じられてしまう」

「宗教的よりもうさんくさい感じがする」

「都合のいいふれこみを使ったサギまがいの商売」

「本当に信仰している人々や正規の寺院よりも、お手軽な流行、消費、商業性を感じる」

<その他>

「ラブライブ!の東條のぞみちゃんが「スピリチュアルやで〜」ってよく言ってるけどよくわかりません」

「宗教的概念を近づきやすくする意図を感じる」

「神秘的な響ではあるが魅力は感じない」

d) 東日本大震災の心理的影響

2011年3月に起こった東日本大震災（「3.11」）から受けた心理的影響については2012年と15年に質問した。

質問内容

今回の災害によって、自分の生き方や考え方で大きく変わったことがありますか。次の中にあてはまるものがあつたら○をしてください。[複数を選んでかまいません]また、とくになかった人は6を選んでください。

1. 人と人のつながりの大切さを再確認した。
2. 生きることの意味について真剣に考えるようになった。
3. 自然の力の大きさをあらためて感じた。
4. 死というものを身近な問題として考えるようになった。
5. その他[具体的に: _____]
6. とくに変わったことはない。

両年とも「自然の力の大きさをあらためて感じた」という回答がもっとも多く、2012年が68.9%、2015年が67.8%と7割近くを占めた。次いで「人と人のつながりの大切さを再確認した」がそれぞれ50.7%、44.4%であった。

①2012年

2012年は自由記述は165名(4.0%)であった。家族の大切さに言及したのが10名。7名が原発問題に言及しているが、わかっていたはずだというやや突き放したような意見もある。何もできないことへの苛立ちも若干ある。

「もっと家族と過ごす時間を大切にしようと思った」

「日本は安全だという考えが崩れた」

「大きな災害があつてショックを受けても、人間は忘れやすいと思った」

「いつ何が起きるかわからないから、今を一生懸命生きようと思った」

「何にも出来ない自分に腹が立った」

「こんなに大変なことがおきたのにどうして自分は何の行動もとっていないのか、これからどうやって関わっていくべきか考えた」

「友人が何人か死んだけど人間死ぬ時は死ぬんだと思った」

「雲行流水の理を理解した」

「海外のニュースで日本人は冷静だ、ということが言われていて、日本人は強いんだと思った」

「改めて「絆」と連呼する人が増えたことにいらいらを感じた」

「建前では皆心配するそぶりをみせているが自分の身を削ろうとしないのにはすごくがっかりした。これは日本の宗教性に関わっていると思う」

②2015年

2015年は具体的な記述は148名(2.6%)であった。2012年同様、当たり前なのが幸せとか貴重だということに気づいたとか、家族の大切さをあらためて感じたという人が5名いた。原発の怖さ、危険性への言及も9名いた。ネット情報への不信感、その他、辛辣な意見も若干ある。

- 「あたりまえ」がどれだけ貴重で大切なことかを知った
- 「何もなかった日、いつも通り、平凡に対するマイナスなイメージがプラスになった。それに対する感謝の念が強くなった」
- 「家族を守りたいという思いが強まった」
- 「彼らの悲しみ、辛さ、そして逆に前向きな人は彼らの希望、輝き」
- 「災害において人が如何に行動すべきかを考えるようになった」
- 「自分たちの無力さを知った」
- 「命の尊さと誕生の奇跡が当たり前ではないと感じるようになった」
- 「どんな人でも死んだら悲しむ人がいる」
- 「辛い時は泣くより馬鹿笑いをした方が良い」
- 「仏教の無常観に近いものを感じた」
- 「九州で生活して不自由なく過ごしていて SNS やテレビのニュースが騒がしいと落ち着いて冷めているような自分と支援する気持ちを持つ自分を確認した」
- 「電力を使いすぎていると感じた。人間は電気がなくても生きていける」
- 「土木技術者としてできること、やるべきことがあると強く確信した」
- 「政府行政の無責任さ、もしくは準備不足があること」
- 「日本は責任を取らない国なのだと再認識した」
- 「科学者に対する不信感が増大した」
- 「ネットの情報をうのみにできない、あまり真剣に信じなくなった。デマや噂の広がり方の考えが変わった。」
- 「人間の愚かさも感じられた(福島という言葉で過剰に敏感になる)」
- 「ボランティアと称して役にも立たないのに被災地に行き、さらにそれを SNS にのせる人間の多さに驚いた」
- 「生きるか死ぬかとなった時、自分のことばかり考える人しかいないのだと思った」
- 「自分がみにくい人間だと思った」

e) 霊魂のイメージ

霊魂については2000年と2005年に自由記述の欄があった。

質問内容

信じる信じないにかかわらず、あなたの持っている霊魂のイメージについて、あてはまるものを選んで下さい。(複数選んでもかまいません)

1. 生きている人間の中にあるもの
2. 死んだ人の霊
3. 動物の霊
4. 樹木や草花の霊
5. その他[具体的に:]
6. 特定のイメージがわからない

①2000年

2000年には213名(3.3%)が記述をしている。「生命のすべてにある」、「すべての生物のもって

いるもの」に類する記述がもっとも多い。

「粒子」

「全てのものにやどるもの、やどつていたもの」

「不滅のもの、人間の根幹」

「地球上の全ての生命、森・川・山・動物・草含む」

「全ての生物に宿っているもの」

「人の頭脳の電気信号の集合体」

「残存思念」

「偶発的なエネルギー」

「光のかたまり」

「気のせい」

「死んですぐの人の霊」

「炎みたいな形」

②2005年

2005年は209名（4.9%）が記述している。2000年とさほど目立った変化はない。

「輪廻するもの」

「幽子という物体」

「万物に宿るもの」

「他人の意識の模倣」

「世が変わっても変わらずにあるもの」

「守護霊・背後霊」

「まだ知られていない粒子」

「あらゆるものに宿っているエネルギー」

「科学では説明できないもの」

「ある関係成態を実態視して現象説明のための概念として社会的に共有される存在了解のやり方」

第18章 宗教の社会的問題

ここでは見知らぬ人から宗教あるいは占いなどの勧誘に対する自由記述と宗教者の社会的役割についての自由記述を示す。

a) 見知らぬ人からの勧誘に対して

宗教の勧誘の経験については、複数回質問しているが、2007年には見知らぬ人からの勧誘に絞って、自由記述もできるような質問をした。どのような内容の声のかけられ方をする場合が多いかを調べるためである。

質問内容

話しかけられたときの内容はどのようなものでしたか。次から選んでください。[複数回答可]

1. 「手相の勉強をしています」
2. 「あなたの守護霊が見えます」
3. 「あなたには特別のオーラを感じます」
4. 「このままだと何か不幸なことにあいます」
5. 「今、人生の転換期です」
6. その他 [具体的に: _____]

自由記述をした者は 136 名 (3.2%) である。相手をほめるような言い方、どちらかと言えば不安を煽るような言い方、関心をそそるような言い方など、いくつかパターンが見いだされる。

「あなたキレイな目をしてますね」

「人相の勉強をしています。貴方はとてもいい運の顔をしていますね」

「良い手相ですね～」

「あなたと私は前世親子でした」

「以前事故にあったことはありませんか？」

「運を生かしきれっていません」

「あなたには今何か悩みがあるはずですよ…みたいな事」

「以前事故にあったことはありませんか？このツボを買えば…」

「線が細い、人生の目標、将来のことが決まっていらないのでは？」

「貴方は今の人生に満足していますか？」

「あなたのご先祖のことでお話があります。」

「水晶玉に興味はありませんか？」

「先生に会って下さい」

「あなたのためにお祈りさせてください」

「具合が悪くて駅でうずくまっていたら、キリスト教に興味ありませんか？と言われた」

「似顔絵を描かせて下さい」

「神のありがたいお言葉を聞きませんか？」

「声をかけられたが、なぜか学生であると言ったら、学生の手相は見ないと言われた」

「あなたは先が無いと言われた」

「占いは科学であるとご存じですか」

b) 宗教者の社会的役割

これについては 2005 年と 2010 年に質問している。

質問内容

宗教者であるならば、やるべきだと思うことが以下にあったら選んでください。(複数回答)

- 1.差別をなくすための活動
- 2.被災者・被害者の心のケア
- 3.死を迎えようとする人の心の支え
- 4.障害者や高齢者に対する社会福祉活動
- 5.平和のために祈る
- 6.その他(具体的に:)」

その他として記述した中にも予め設けられた選択肢の内容と重なっているようなものもあるが、傾向としては大きく3つに分けられる。積極的に何をやるべきかについて記したもの、宗教者だからといって特にやるべきことはないというもの、そしてかなり辛辣な批判的意見である。最後のものがもっとも多かった。肯定的なものは選択肢の中に含まれているので、批判的な内容を書く人が多くなるのは当然かもしれない。ただその内容からは現代の宗教や宗教者のありように対する学生の批判がどこに向けられているかが、よく見えてくる。「信者を犯罪者にしない」というようなオウム真理教を念頭に置いたと思われるものもあるが、おおむね現代の宗教全般に対してのものと考えられる。

①2005年

2005年には278名(6.5%)が自由記述している。

<積極的意見>

「宗教的用語の現代訳の作成」

「社会に対して積極的に行動する。(選挙とか署名活動とか、普段の生活でルールを守って生活するか。)」

「自分の宗教がどのようなものであるか周りに知らせる活動」

「国の繁栄を祈る」

「やってくる人々の望みを受け入れる」

「その宗教が世界に広まるように活動」

「カルト被害者のためのケア」

「カルト集団などに対する抗議行動や社会問題に対する発言」

「平和のために行動を起こす対話と」

「その宗教によって考え方が異なるので一概に「やるべきだ」とは言えない」

<消極的意見>

「自分の思う神様だけ信じていけばよい」

「学問的、哲学的な求道」

「真理の追究」

「信仰によって自分の心が満たされるのであれば、やるべきことはない」

<批判的意見>

「特別に税金を多く払う」

「金をもらうのをやめる」

「何かするために宗教は必要ない」

「金もうけを考えないこと」

「お布施の要求を止めること」

「質素なくらし(お金を持っているイメージが強い)」

「無料で人の相談を受ける」

- 「他の宗教との争いをやめてお互いを理解して譲歩する」
- 「宗教者同士の争いを止める」
- 「宗教を戦争の理由にさせない運動をする」
- 「宗教が原因で起こる紛争や事件をなくす」
- 「他人をどうこうする前に自分自身をもっと見つめるべき」
- 「他の宗教にも関心を抱き、境界線をなくす」
- 「自分の信じる宗教を、誇示しない、表に出さない」
- 「平和を祈るだけでなく行動」

②2010年

2010年は191名（4.4%）が自由記述している。2005年と同様に3パターンに分ける。

<積極的意見>

- 「環境保護、教育、子供の保護」
- 「国際援助協力」
- 「地域コミュニティの基地になるための活動」
- 「困っているひとの相談にのる」
- 「死刑囚に対してもっと説くべき」
- 「死者遺族に対する心のケア」
- 「自分がどんな状況でその宗教を信じるようになったのか、それによって精神的に、そして金銭や生活の状況がどう変わったのか公表して布教すればいい」
- 「運動とまではいかなくとも平和主義者であるべきだと思う」

<消極的意見>

- 「特にやる必要はないと思う」
- 「修行」
- 「信仰さえしてればいい」

<批判的意見>

- 「信仰を他人に勧めない」
 - 「自分の信仰を他人に押しつけないこと。個々の考えがあることを理解すべき」
 - 「何もしないで大人しくしてほしい」
 - 「何もしないようにすべき。人の価値観はそれぞれ違う」
 - 「教主は贅沢しない」
 - 「金を集めず人の心の支えとなる教えを望む人にだけ教える」
 - 「宗教間の戦争、殺人を自覚し、悔いるべき」
 - 「宗教勧誘でお宅訪問はしないという規則作り」
 - 「生活の手段としての宗教者をやめるべき。つまり金を稼ぐことをやめるべき」
- 以上で分かるように、批判の視点としては、排他性、宗教紛争、金儲け主義、押し付けなどが中心である。

第19章 脳死状態での臓器移植問題

自分が脳死状態になったときの臓器移植に関する自由記述は、1998年、2005年、2012年、2015年の調査である。比較的似た記述が多かったため、1998年の回答から全体的傾向を探り、以下の年は特徴的なもののみ示す。自由記述した人の割合は1998年は3%台であるが、それ以後は1%台という比較的低い数値である。

質問内容

あなたが脳死状態になった場合、臓器を提供することをどう思いますか。

- 1.すすんで提供したい
- 2.提供してもよい
- 3.あまり提供したくない
- 4.絶対提供しない
- 5.その他[]

①1998年

回答者名 6,248 のうち 221 名 (3.5%) の自由記述がある。必ずしも設問を的確に理解していないような記述もある。とくに脳死の意味については理解していないと思われるものが少なくない。ただ臓器移植一般に関する学生の考え方を知る上で役立つので理解の程度は度外視して記述されたものを示す。

<家族等の意見による>

- 「家族の意見を聞く」
- 「親に任せる」
- 「他の肉親が許可すれば提供してもよい」
- 「自分自身は良いが、家族、又は、知人の態度を聞いてから」
- 「身内にまかせる」

<相手による>

- 「子供に提供されるのなら良い」
- 「相手を指定できれば提供する」
- 「提供する人を選んで、自分がいいと思った人になら良い」
- 「相手によっては提供してもよい」
- 「自分の好きな人になら良い」
- 「親・兄弟になら良い」

<臓器による>

- 「臓器による」
- 「臓器は提供しないが、角膜は提供したい」

<対価を求める>

- 「お金で売りたい」、「お金をくれるなら」というような答えもあった。
- 「親族に金をくれるなら」

<条件付き>

- 「健康であるなら提供してもよい」
- 「部分による」「部位による」
- 「外見が変わる部分は提供しづらいと思う」

「提供しても成功する確率が低いので、確率が高くなれば提供したいと思う」

「脳死と診断され、命を断つことになるならば提供してもよい。ただし、臓器をとめるかどうか、本人の意志なしの決定は別問題。復活する可能性があるなら死にたくない」

「一年以上過ぎても目が覚めなかったら、というような条件付で」

「法整備がきちんとしていけばよし」

「事前に問題なく合意が成立していること、提供の方法が安全なものと同信できること、という条件がととのっていけばすすんで提供したい」

<その他>

「可能性があるまで生きたい」

「どこで死の境界線を引くか、答えを見出せない以上、この問いには答えられない」

「でも自分の両親のは提供したくない」

「その時にならないと分からない」

「ドナー登録している」

「不摂生のため、自分の中に他人に提供できる臓器があると思えない」

「脳死を死と考えているので、死んだら何をしてもらってもかまわないが、進んでは提供しない」

「倫理的な面から臓器提供にはあまり賛成できない」

「臓器を移植しろという団体、医者、看護婦がまずやるべきでは？」

②2005年

回答者 4,252 名のうち 61 名 (1.4%) の記述がある。

「死んだ後のことはどうでもいい」

「親族の意見をあらかじめ聞いてお互い提供するかしないかで同意をする」

「考えようとすら思わない」

「親の意見と自分の意志が一致しないことにはわからない」

「自分を大切に思ってくれている人に任せる」

③2010年

回答者 4,311 名のうち 82 名 (1.9%) が記述した。記述の内容は 1998 年の結果と大きな違いは見られなかった。この年も家族に言及した人が比較的目立ち、13 名にのぼる。やや特徴的なものを中心にいくつか示す。

「臓器移植法についての正しい知識が全国民に知れ渡ったら提供してもよい。現在の日本国民の意識では提供したくない」

「四十九日過ぎたら提供していい」

「お金をくれるなら提供しても良い」

「そもそも脳死は人の死ではないと思う」

「配偶者が望むのなら良い」

④2015年

回答者 5,773 名のうち 85 名 (1.5%) が記述した。大きな変化はないが、どの臓器を移植するのかという点にこだわったものがやや目立った。「目以外」というふうに記述したものが 4 名いた。理由はよく分からない。

「胃が弱いのでその他なら提供できます」

「私の臓器は健康ではないと思う」

「心臓と眼球以外の部分臓器提供」

「心臓なら良い」

「親族の場合ならば提供してもよい」

「人を助けたいとも思うし、生まれたままの姿で死にたいとも思うのでよく分かりません」

「生んでくれた親の意見に従う（聞く）」

「提供してもよいが、家族が提供したくないと言ったら提供したくない。悲しみを増やしたくはない」

「脳死から戻れる確率が2割を切ったら提供してよい」

「脳死についてもっと研究が進んだら提供してもよい。今の段階では不明瞭すぎる」

「脳死状態を疑問視している」

第20章 靖国問題

2005年と2015年は靖国問題について質問した。そのうち2005年の質問では「首相が靖国神社を参拝することをめぐって対立する意見があることを知っていますか。」という質問に「知っている」と答えた人に対して、「参拝に反対する人たちの反対理由について、知っているものを2つまで具体的に書いてください。」と自由記述をしてもらった。回答者4,370名のうち2,547名が少なくとも1つの回答をしている。関心が高いと言える。また、2005年には韓国でも同じような質問をしたので、比較の意味もあって、双方の回答を示す。

a) 日本での調査

2つまで書いてもらったが、自由記述をした2,547名のうち、866名が2つの事柄を記入している。従って延べで3,413の自由記述がある。なお具体的に記述した内容が「知らない」、「わからない」とだけ記した類は省いてある。大半はいくつかの類型にまとめられるので、それぞれの具体例と共に以下に示す。

<戦犯を祀っていることへの言及>

もっとも多かったのは戦犯がまつられているからという内容のものである。「A級戦犯が祀られている」というように書かれたものも559にのぼる。なお、「A級戦犯」を「永久戦犯」と記したものが25名もいた。「一級」と記したのも4名いた。「靖国神社には東条英機等戦犯等も祭られている」などと、東条英機の名前をあげたものも15名いた。たんに「A級戦犯がまつられているから」だけでなく、次のようにもう少し詳しく記したものもある。

- 「A級戦犯が祀ってある（合祀）のに、参拝することで戦争を正当化していると考えられている」
- 「靖国神社には戦争で指揮をとった人が祭られているから」
- 「靖国神社には東条英機等戦犯等も祭られている」
- 「A級戦犯が合祀されていることへの嫌悪感」
- 「戦争を指導し、戦後処刑された戦犯もまつられている」
- 「戦犯者がまつられている神社に参拝する事は戦犯者のやった事を認める事になる」
- 「戦犯をまつる神社に参拝することは、戦争の被害を受けた人に対して許されない」

<戦争を肯定することになることへの言及>

- 「靖国神社に参拝する事は、戦争をしても良いというようなことを意味するから」
- 「自国を一つにまとめられないからちょうどよい敵がほしいから」
- 「戦争を肯定することになる」

<その他>

- 「行政のトップである首相が特定の宗教施設を特別的にあつかうこと」
- 「アメリカが怖いから」
- 「お寺ではなく、神社だから（死者を弔うのはお寺。神社は戦死者を神聖化し、戦争を美化するということだから。）
- 「キリスト教等他宗教の戦犯者も強制的に合祀されているため」
- 「ただのいやがらせ」
- 「遺族の意志を無視した合祀」
- 「なんとなく、気分的に反対している」

b) 韓国での調査

2005年の韓国での調査では、1,288名の回答者がいたが、そのうち481名がこの質問に自由記述をしている。そのうち258名が2つ回答しているので、延べで739件となる。やはり戦犯がまつられているという内容を述べた回答者がもっとも多く144名いる。約2割を占める。そのうちA級戦犯という表現をしている人も6名いる。一級戦犯という表現が4名いる。

<戦犯を祀っていることに言及>

「A級戦犯を参拝することは理解しがたい」

「世界大戦後、戦争犯罪者が祀られていて、日本総理がそれを政治目的で利用しているから」

「戦争犯罪者の神格化」

「戦争の犠牲者といい、実は戦争の主犯まで合祀している」

「靖国神社は戦争を起こした人物たちを祀っているところであるが、彼らたちを尊敬することだなんて、話にならない」

「神として祀る人が日本には歴史的英雄であるが、とても多くの人を殺した戦争英雄だから」

「人を殺した人を祀ること自体が問題」

<過去を反省していないという記述>

韓国の場合、「過去を反省していない」という趣旨のものが73名とかなりの数に上る。具体例をいくつか示す。

「日本は過去の過ちを反省していない」

「戦争を起こした人々を崇拝すること自体が理解しがたい。」

「このような神社に一国の首相の立場で参拝することは、日本が戦争を反省せず、正当化することである」

「罪を犯した人に参拝することは、同じことができるということだから」

「戦争を起こした人たちを参拝することは過去に対する反省がないという意味だから」

<軍国主義、帝国主義の復活>

48名がこうした内容の記述をしている。

「戦争の犯罪者たちを神のようにたてまつる」

「日本は第二の世界征服を狙う」

「当手を回想し、もう一度世界制覇を夢見ているように見える」

「帝国主義の復活」

「過去の極右主義の指向を再び起こす画策」

「侵略戦争の産物である靖国神社」

「未だに軍国主義（帝国主義が残っているという跡）」

「軍国主義復活」

<外交上の問題の指摘>

こうした指摘も日本ではあまりなかったが、日韓、あるいは日中韓の外交上の問題になることを指摘しているのも72ある。

「韓日・中日の対外関係が悪化する可能性がある」

「中国・韓国の反感を買う」

「周辺国との関係を無視していることが問題」

「国際社会での孤立、外交的問題。」

「国際社会の非難・憂慮」

<その他>

あまり関心がなさそうな記述や、戦争の実態について誤解しているような記述も散見される。

「公に参拝するほど良い人物が祀られているところではない。」

「韓国から徴兵された人の中、自殺特攻隊で死んだ人は、靖国神社の参拝名簿に載せられることを望まない。」

「ヒトラーを神として祀ることと同じ意味だ。」

「殺人者を崇拝することは死んだ人に対しては欠礼であるが、戦争には正しいことも違ったこともないので、参拝しても構わない。」

「参拝するのはいいけど、派手にしないで欲しい」

「戦死した韓国人に対する侮辱である」

「聞いたことはあるけど、正直あまり関心がない。やってもやらなくても。」

「靖国神社に参拝することは、韓国にも日本にも得な面はないと思う。」

「首相の右翼にかたよる行為」

「当時韓国と戦った人が日本では英雄として祀られているが、立場を変えて考えると、韓国人が恨む人である」

「入信した教団がたまたま犯罪集団だったのはその人の不幸だと思う。」

「オウムは巧みな手段を使うのでしょがないと思う。」

「そういうことをしているのを知らなかったのだから仕方ない」

「今まで勉強しかしてこなかったの、友人もなく、社会に出てから人間関係にやっていけなくて、不安なところにつけこまれたからしょうがないと思う」

「犯罪について何も知らなかったのならば、仕方ないと思う」

「社会のひずみによって生まれたかわいそうな人達だと思った。」

「入信したくて、入信したのは少ないのでは？たぶん皆い場所がなかったんだと思う」

「いい人なだけにかわいそう」

「かわいそうにとしか思えない」

「よりどころにして信じていたのにこんなことになって気の毒」

「気の毒に思う。自分の信じていることが否定されるのはつらいことだが、早く気づく勇気をもって欲しい」

「信仰していた人は気の毒だ、悪いとは思わない」

「オウムにだまされたかわいそうな人達だと思う。」

「オウムに入信していた人は、心のよりどころをオウムに求めた人達であるのに、だまされていて、かわいそうだ」

「心の拠り所を失ってしまったわけだし、信じていたものに裏切られ少々かわいそうだ」

<あれこれ言えないというような記述>

「単純にはいえないと思う。社会的要因もあると思う。」

「自分もひょっとしたら、入信させられたかもしれないと思う」

「サリンなどは上の人が勝手にやったことであるから、それを全く知らなかった入信者は悪くないし、非難しようとも思わない。」

「どの宗教でもそうだが教団組織がしたことについてその宗派に属している人をどうこうは言えないと思う」

「勧誘がよほど上手かったのかもしれないのでなんともいえない」

「信仰の自由だから別にいい」

「彼らの入信の動機はよしあしと犯罪は関係が薄いとおもう」

「いろいろな意図で入信していると思うので人それぞれに思いも違う」

「その人自身が信じているのならよいと思う」

<知識や洞察の不足といった記述>

「宗教に対する正しい理解力の低下＝宗教的知識不足」

「他の宗教を全く知らなかったのだと思う。」

「公で宗教をタブーとしたので彼らのように根本的に誤った思想を抱く人が現れたのだと思う。」

「現在の教育制度に問題があると思う」

「本質を見抜く力が乏しいと思った」

「気持ちはわかるが、もう少し教団を第三者的に見る目がほしい」

<理解できないというような記述>

「オウムの何が魅力だったのか理解できない」

「何故そんなに客観性が失われてしまうのか不思議」

「入信した気持ちはわかるが、犯罪がわかったあとも信者であるのはわからない」

<その他>

「どういふふうに洗脳されたかきいてみたい。」

「どうして入信したのか知りたく思う」

「多分真面目な人達なんだと思う。あと優秀な人が多く、プライドが高く、自分は特別な人間なの
だと思込んでいるという印象があります」

「脱会して気持ちを入れ替えてほしい」

b) オウム報道について

質問内容

(1997年、99年)

Q18 現在あなたは、オウム真理教についての報道に対して、どれくらい関心がありますか。次の中から選んで下さい。

1.非常に関心をもっている 2.多少関心をもっている 3.あまり関心をもっていない 4.関心はない

SQ18. Q18 で 1.~3.を選んだ人はその関心の内容について次から選んで下さい。(複数に○をしてもかまいません)

- 1.裁判のなりゆき
- 2.今でも信者である人たちのようす
- 3.脱会した信者の社会復帰
- 4.麻原彰晃(松本智津夫)の言動
- 5.オウム真理教の教え
- 6.サリン事件の被害者に関すること
- 7.その他[具体的に:]

①1997年

1997年は289名(5.1%)の回答者が記述した。麻原彰晃に関することという人が比較的多く28名であった。その他、報道のありかたそのものに言及した人が13名、指名手配者に触れた人が9名、サリン事件に関することを挙げた人が7名、マインドコントロールに触れた者が6名、上祐史浩の名前を挙げたのが4名であった。

<報道に関して>

「オウムの起こした事件や行動に興味はあるが、報道はあてにしていない。」

「報道のあり方と、それを支持する一般大衆の心理」

「報道の際の解説のうさんくささ」

「オウム信者、元信者、幹部、教祖たちの生い立ちの事実(芸能レポーターの独断と偏見による解説はいいらない)」

<オウム真理教の現在の活動やその危険性>

「現在の危険性について」

「またオウムがテロに走るか否か」

「いまだ逃亡中の容疑者のこと」

「サリン事件で死んだ人の家族たちは今どうしているか」

「現在のオウムの活動」

<事件の背景について>

「この様な宗教を生み出してしまった時代、社会背景と、信者となる人々の心理の関係について」

「何故宗教が反社会的行動に出るのか」

「何故にインチキ宗教にまで人は救いを求めるのか」

「なぜにオウム真理教のような社会現象が起こったのか？」

「オウム真理教にひかれた人々の性格、人間性」

「信者たちが入信した理由に関すること」

「そこに入ろうとした動機」

<その他>

「オウムについての宗教学者の意見」

「上祐に関心がある」

「この事件に対し、一般人（日本人・外国人）がどのような意見を持っているか」

「どれくらいの刑罪になるか知りたい」

「とにかくすべてに気になる」

「サティアンにいた子供たちの様子や、地域社会の人の受け入れ方、反応」

②1999年

1999年に自由記述をした人は728名（6.7%）であった。割合で見ても97年よりも多い。特徴的なのは破防法に言及したもので31名が破防法という言葉を使っていた。オウム真理教の現代の活動状況を知りたいというのが50名以上いた。信者の動向といったことを書いた人も27名いる。上祐史浩にも5名が言及している。マスコミ報道への不信のようなものも10名以上が記していた。

<復活の危惧、活動の規制など>

「破防法適用、特別立法の制定について」

「逃げつづける3人の指名手配者」

「今後どのようにこのような危険な団体の活動を規制すべきか」

「いつか復活しそうな気がする」

「サリン事件が再び起こるのではないかという危惧。もしくは同じ様な事件」

「『オウム復活』という評判だがその事実関係」

「信者の数が増えてきて、全国各地に勢力を拡大させていること」

「今後オウム真理教が再び大きくなることはないのか」

「今でも信者である人たちが住もうとしている市などで反対運動があること、次は何をしようとしているのか」

「オウム真理教の現在行っている活動、地元住民とのトラブル」

「脱会したのにまた戻って来た人達のこと。サリン事件があったにも関わらず信者になる人達のこと」

「上裕の釈放とその後のオウムの活動」

「出所後の幹部の言行やその時の信者の言行」

<その他>

「今後の日本社会の宗教に対する考え方」

「オウムの幹部で一流大学を出ながらオウムに入った理由、目的」

「なんで教祖である麻原があんなのに宗教として国がみとめちゃうのはなぜ」

「なぜ彼らはサリンをつくることができたのか」

第22章 イスラム問題

イスラム教については2005年、2012年、2015年の3回質問しているが、近所にモスクができることになったら不安かどうかという内容の自由記述は2012年と15年に設けた。

質問内容

Q16C. モスク(イスラム寺院)が近所にできることになったとするとあなたは不安を感じますか

1. 不安は感じない 2. 少し不安を感じる 3. かなり不安を感じる

Q16D. 上の問いで2または3を選んだ人は、その理由を簡単に書いてください。[]

①2012年

この年の回答者4,094名のうち1,782名がQ16Cの質問に「少し不安を感じる」、「かなり不安を感じる」と回答したが、そのうち1,447名(81.2%)と8割を超える人がその理由について具体的に記述している。多くは「怖い、アブナイ」、「テロを起こしそう」、「イメージが悪い」、「迷惑、治安が乱れる」といった簡単な記述に過ぎない。つまりほとんどイメージ的なものであると分かる。

「怖い(こわい)」という表現だけで200名近くにのぼる。テロという表現を用いた人が54名いる。アブナイという表現を用いた者も5名いる。「こわい」「こわいから」「こわそう」「なんかこわい」「なんかこわいから」「なんとなくこわい」「何となく嫌」といった程度の記述が大半であるが、少し具体的な記述もある。

<テロなど、怖さについて言及したもの>

「イスラム教の目には目を、歯には歯をという考え方が怖いから。」

「イスラム教は信仰心がつよいから怖い」

「過激な事をやりそうだから」

「過激派だったら(が来たら)と考えるとテロが怖いので」

「過激派によるテロ行為への恐れがある」

「イスラム教は少なからずテロリストと結びついていると思うから」

「テロなどが起こるのではないかと不安があるから」

「テロリストが潜伏している可能性があるため」

「テロリストによる悪用のおそれがあると思うから」

「イスラム教は怒らせると怖いというイメージがあるため」

「モスクに良いイメージがないため」

<近くにモスクができることへの不安>

「イスラームをよく思わない人がモスクやムスリムに対し危害を加えるかもしれない。それに巻き込まれることへの危惧」

「イスラム教をむやみに嫌がる人がいそう、そのせいで問題が起こりそうだから」

「イスラム教徒と近辺の住民がトラブルを起こすかもしれないから」

「自分の知らない宗教で、勧誘がこわいから。」

「宗教の結束はかたいと思うからトラブルが起きた時に不安」

「宗教的なデモなどが近所で起こるのは嫌だから」

「宗教的なトラブルが発生した場合、被害を受ける可能性があるから」

「人が沢山来て、交通が不便になりそう。」

「宗教的抗争が起こるかもしれないから」

「イスラム教はキリスト教とずっと戦争しているイメージがあり、何かキリスト教に対する計画を

たてたりせいでいるんじゃないかと思ってしまうし、単純に外国人が増えそうで怖い。」

「たくさんの人が毎日訪れる、反対派の人が来る、とか考えると不安だと感じるからです」

<自分がイスラム教について無知であることを自覚>

「イスラム教自体との関わりがなかったため、どんな宗教なのか分からない」

「イスラム教徒の人と関わったことがないから（全く未知の存在であるから）」

「イスラム寺院がどういうものか分からないから」

<その他>

「1日数回モスクから大音量でお祈りのお知らせが流れるかもしれないから。（インドネシアに行ったときそうだった。）」

「アザーンが朝っぱらから流れるのは少し迷惑であるから。」

「シンガポールに行ったときにモスクにおどろいたから」

「クリスチャンとして、摩擦が起きないか不安。間違った宗教の寺院が新たにできるということでも不安。」

②2015年

2015年は5,773名の回答者のうち、3,519名が「少し不安を感じる」、「かなり不安を感じる」と回答、そのうち2,798名が具体的に記述している。2015年に比べて不安を覚える人が増えたのであるが、その理由にISに触れた記述が目立つことが特徴である。回答者のほぼ8割がこの設問に具体的に記述していることから、イスラム問題への関心の深さがうかがえる。

具体的記述を求めたのは「少し不安を感じる」、「かなり不安を感じる」という回答の選択肢を選んだ人に対してだけであったのが、「不安は感じない」という選択肢を選んだ人の中にも、その理由について具体的記述をした人がかなりいた。2,104名のうち1,550名がなぜ不安を感じないかを記入していて、74%ほどに上る。そこからはイスラムをそれなりに理解しようとする姿勢が少なからず出てきていることもうかがえる。

不安と思う理由は、不安を感じている人たちが挙げているようなことがらは一部の人たちが関わっているに過ぎないという内容が大半である。つまりアブナイというイメージがあることや、ISが話題になっていること、それがテレビでしばしば報道されていることなどを踏まえた上で、それが日本にいるムスリムに結びつく話とは考えないということである。

具体的記述をいくつか紹介する。

「みんながみんなそうじゃないのはわかってるけど、最近は過激派が怖いから。」

「イスラム教徒」が来るだけで「犯罪者」が来るわけではないから。」

「イスラム国」としてテロを行う人はいるが、イスラム教徒全員がそうではないし、危険な宗教だと思わないから」

「ISILのような過激派はごくわずかだと考えているので」

「ISとイスラム教は別だから」

「TVでは話題になっていたがそれは一部だけだと思うから」

「あやしいと思ってないから」

「イスラムの教えは自分の考えていることに近いところがあるから」

「イスラム教そのものに不安を感じていない」

「イスラム教に悪いイメージはないため。」

「イスラム教は危険な宗教ではないから。」

「イスラム教は長い歴史の中で支持されてきた宗教であり大半の人はテロリストではないから」
やや具体的な理由を添えているもの

「イスラム教を信仰していて、危ないことをする人は一部であるから。世界の人口でいったらイスラム教は多いし、気にすることはない」

「イスラム教は長い歴史の中で支持されてきた宗教であり大半の人はテロリストではないから」

「あくまでも“宗教上の”建物であって、“政治的意図”を持って建てられたと考えないから（平和ボケと言われるかもしれませんが）」

「ISIS は聖書の拡大解釈を言い訳に好き放題やっているほんの一部のイスラム教徒だと思うから」

「イスラム教信者で IS のような危ない人はごく一部で、ほとんどの人は穏やかな人だと聞くから。」

「イスラム教徒=過激派ではないと思うから。日本は治安がいいから大丈夫だと思う。」

「イスラム教徒でもおかしいのはほんの一部で、他の一般的なイスラム教徒の方が差別されるのはおかしいから。」

「イスラム教徒の方々には真面目で、人を殺してはならないと決まっていると TV で報道されていたから」

「イスラム教が怖い宗教だと感じないし、教会が近くにあるのと同じようなものだと思うから。」

「イスラム教について勉強しているため、週1モスクに行っているため」

「イスラム教徒、イスラム教の施設が存在することは他人が反対することではなく、必要だと考えるから」

「イスラム教徒でもおかしいのはほんの一部で、他の一般的なイスラム教徒の方が差別されるのはおかしいから。」

2015年の自由記述全体で IS、ISIS、ISIL という言葉を用いて説明しているのが 110 名いる。「不安は感じない」理由を述べる中でこの言葉を用いたのが 42 名で、「少し不安を感じる」、「かなり不安を感じる」理由を述べる中でこの言葉を用いたのが 68 名である。それぞれ全回答者の 2.7%、2.4% であるので、似たような割合である。IS（イスラム国）を念頭に置いたとしても、それがモスクができることへの不安に直結するとは限らない。